

(2020年5月)

ハイチ共和国・政治・経済・社会情勢月報

在ハイチ大使館

<要点>

【政治】

- モイーズ大統領による旗の日記念の国民向けスピーチ（18日）。
- コロナウィルス関連の非常事態宣言の2ヶ月延長（20日）。
- モイーズ大統領の任期の終了時期に関する米州機構のコメント（29日）。

【経済】

- ペリーグル水力発電所のタービン故障（5日）。
- ハイチ通貨グルド対米ドルレート下落（1ドル110グルド）（9日）。

【社会】

- 国内のコロナウィルス患者が100人に到達。（4日）
- ハイチ政府調達コロナウィルス関連医療品のハイチ到着（7日～15日）
- ポン・ルージュ地区におけるギャング組織による虐殺事件（24日～26日）。

1 政治

（1）旗の日記念大統領スピーチ

- 18日 モイーズ大統領は、旗の日を記念したセレモニーは開催せずに、大統領府において国民向けのスピーチを行った。この中で、国の富を独占する一握りのグループ（財閥）が国を支配している「システム」が国の発展を阻害しており、国民が団結してこれに立ち向かうべきことを呼びかけた。

（2）コロナウィルス関連の非常事態宣言の2ヶ月延長

- 20日 ジュトゥ首相が非常事態宣言を2ヶ月間延長する旨を発表した。

（3）モイーズ大統領の任期の終了時期に関する議論

- 29日 複数の野党指導者から、モイーズ大統領の任期は憲法解釈上、2021年2月7日までであるとする主張がなされたのに対して、米州機構事務総局は、モイーズ大統領の任期は2022年2月7日までとする声明を出した。

2 経済

（1）ペリーグル水力発電所のタービン故障

- 5日 政府は、ペリーグル水力発電所のタービン3つのうち2つが故障したことを発表した（5日）。

（2）通貨グルドの止まらない下落

- 9日 ハイチ通貨グルドが対米ドル為替レートで1ドル110グルドに下落した。

3 社会

(1) コロナウィルス感染者

- 4日 国内のコロナウィルス感染者が100人に達した。
- 7日 ハイチ政府が調達したコロナウィルス関連医療品の第一便がハイチ国際空港に到着した(15日まで輸送が続いた。)

(2) ポン・ルージュの虐殺

- 24日～26日の3日間、ポルトープランスのポン・ルージュ地区(建国の父デサリーヌが暗殺された場所)において、複数のギャング組織によって、6名が銃で殺害され、3名が行方不明となり、7軒の家が放火される事件が発生した。